

السلام عليكم

～エジプト隊員記～

2021年度1次隊 末永りお
エジプト派遣 環境教育

はじめに

アッサラーム・アライクム（こんにちは）！

2021年度1次隊員の末永りおと申します。私は小学校の頃から現在に至るまで埼玉県さいたま市民です。一方、任地はそこから約1万5千キロ離れたエジプトアラブ共和国のガルビーヤ県です。

さて、皆さんはエジプトと言えば何を思い浮かべますか？恐らく最初に思い浮かぶのは砂漠にそびえ立つギザの3大ピラミッドでしょう。私が暮らしていたタンタと言う町はそこから北へ約90キロの距離にあります。勤務先はエジプト日本学校（Egyptian Japanese School）で、職種は環境教育です。

このレポートではエジプトでの様子や、私の勤務先がどのようなところだったか等をお伝えしたいと思います。

基本情報

まずは**エジプトの基本情報**をご紹介します。

エジプトはアフリカ大陸の東端に位置する国で、首都はカイロです。その広さは約100平方キロメートル、日本のおよそ2.7倍です。人口は約1億1099万人で日本より1500万人程少ないだけということを見ると、人口密度が少ないように感じられるかもしれませんが、国民のほとんどは主にナイル川沿い、特にナイルデルタ地帯に集中的に暮らしています（これはそれ以外の地域が砂漠地帯であるためです）。このことからデルタ地帯にあるタンタに居住した私としては体感人が少ないとは感じません。特に若者が多く、生き生きとした活気のある国です。なんと14歳以下の国民が全体の3割程もいます。協力隊の隊員に学校関係者が多いのも頷けますね。

公用語はアラビア語で、英語も都市部ではそのまま使うことができます。あの特徴的な文字を勉強するのは大変な苦勞がありましたが、看板などの目に映るアラビア文字が情報として読みとれるようになるのはとても爽快な体験でした。国民のほとんどはイスラム教徒で、次に多いのがキリスト教コプト派の人々です。

生活面の話をすると、主食は主にアエーシという小麦の無発酵薄焼きパン、マカロニ、そしてお米です。これらとグリルしたスパイシーな鶏や牛、野菜を摂ることが多いようです。ソラマメが軽食の重要な一角を担っており、おかゆのようなフールや、コロッケのようなターメイヤにして毎日食べられています。少し埼玉県のゼリーフライに似ているかもしれませんね。



エジプトってどんなところ？

さて、エジプトの基本情報の紹介も住んだところで、**実際の生活について**私の目線からご紹介したいと思います。こちらで多くの隊員が最初に直面することになるカルチャーショックはコミュニケーションのありかたと時間感覚の違いでしょう。

コミュニケーションは考えていることを日本よりもはっきりと都度主張するのが好まれているように思います。当然文化理解が追いついていない私の理解を超えた繊細なノンバーバルコミュニケーションも存在するのですが、それを差し引いても「自分の意志は強く！大きい声で！何度でも！」主張することが大事です。例えば市場で野菜を買う時、例えば駅で切符を買う時。整列するという習慣がないので人を掻き分けながら「私の対応をして！」と叫ばねばいけません。ここで恥ずかしがっているといつまでも自分の番は回って来ることはありません。私もだいぶ遅くなりました。

次は時間感覚についてです。例えば「〇時に待ち合わせを行う」「〇日に水道工事を行う」といった内容で双方が合意したとして、それが実現しないことや大幅に遅延することのほうが多いです。周囲を観察するに、これは個々人の優しさや誠実さとは関係のないことのように、時間に関する約束事の拘束力は極めて弱いです。彼らが行動するのは常にリアルタイムの事情であり、コミュニケーション。なので1度合意したことでも絶えずゼロベースでリマインドし続ける必要があります。

文化が大きく異なる国に外国人として滞在しているので苦労は尽きませんでしたが、常に親身で鷹揚なエジプトの人々に助けられていました。

どんなところで働いているの？

続いて**私の職場**について紹介します。私の職場は前述の「エジプト日本学校 (Egyptian Japanese School)」です。この学校の特徴は、エジプトの若い世代の能力強化を目的として、日本式教育の特徴である特別活動 (特活) を導入していることです。

この背景には日埃間協カプロジェクト「エジプト・日本教育パートナーシップ (EJEP)」があります。2016年にエルシーシエジプト大統領が日本の学校を訪れた際にその整然とした様に感銘を受け、当時の安倍首相と合意したプロジェクトです。エジプトでは当時も今も人口増加を理由とした教育の質の低下によるモラルハザードが問題視されています。EJSでは特活を通じて生徒たちにコミュニティの一員として規範のある態度を身に着けさせることを目的としています。このEJSは2018年9月からエジプト全土で開校され、日々日本的な教育実践の普及を目指しています。

私はこのEJSにおいて生徒に環境意識を身に着けさせることを目的として派遣されました。エジプトではポイ捨てや大気汚染も深刻な問題になっているためです。このため、私は学校において生徒たちがどのような過ごし方をすれば自身の身の回りの安全や衛生を保てるかという「学校での安全・衛生」講習を各EJSを巡って行っていました。

埼玉県について知ってもらう活動

当然埼玉親善大使としての活動も忘れていません。講習で導入を行う時には必ず日本の基本情報の話から入るのですが、そこで私は日本から来た事や埼玉で育った話などをします。大学で日本語を専攻しているような人を除いて、大概のエジプト人はトウキョウ、オーサカ以外の都市を知りません。ましてや小学生ともなると日本の位置も怪しく、地図上で指さしてもらうとロシアのあたりを指す子が多いです。いつか彼らが何かの機会に埼玉と聞いた時、「昔学校で環境について教えてくれたりオの県だ！」と思い出してくれるといいなと思っています。サイタマ！

活動中の写真

